

スタンダードチャータードPLC 2010年度業績予想

2010年12月14日

(これは、ロンドンにて2010年12月9日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです。)

スタンダードチャータードPLC(その子会社を含む。以下、「当行グループ」または「グループ」と称します)は、2010年度12月期年次会計報告に先立ち、アナリストおよび投資家の皆様を対象として説明会を予定しておりますが、当報告書においては説明事項詳細についてご説明させていただき所存です。

当行グループCEOであるピーター・サンズのコメントは、次のとおりです。

「スタンダードチャータードの業績は本年度も引き続き堅調に推移し、営業収益、税引き前利益共に最高益更新を見込んでいます。また、2011年以降の成長を見据え、年間を通して事業投資を実施してまいりましたが、慎重なバランスシート管理態勢のもと、親密な顧客リレーションシップの構築や事業ネットワーク・商品ラインアップの拡充、十二分な投資の分散化を図るとともに高い流動性と潤沢な資本を保持することで、市場シェアを拡大し、競合他行に先んじて事業展開をしてまいりました。同様に、規律ある事業戦略の実現に励むとともに、変動するグローバル経済下において、急成長市場において大変優位なポジションを維持しています」

以下、比較数値については、特に明記のない限り、すべて年次ベースで作成されています。

損益勘定

グループ業績は、予想値、および、事業指針に沿って好調に推移しています。

本年度の収益成長は、上半期から下半期にかけての収益率がほぼ変わらず、年次ベースで堅調な伸びとなっています。ホールセールバンキング部門では、顧客収益が大幅増となる一方で、コンシューマーバンキング部門においても増幅が十分なことから、両事業部門の業績は、堅調なものとなっています。

グループ全体としては、第3四半期の中間経営報告(IMS)において報告致しましたとおり、前年比で、一部地域国市場での複数商品に係わる資産収益圧迫に起因した純金利収入の微減が見られました。

コスト増加率は、上半期以降、同レベルで推移していることから、収益成長率を上回る見込みです。これは、新店舗の開設や、営業職(RM)・フロントオフィス職員の採用、システム改善、企業ブランドの促進等、両事業部門での投資を推し進めてきたことに拠るものです。加えて、法規制・コンプライアンス対策費用の増加や、人材獲得への競争が厳しくなっていることも、コスト増の一因となっています。

一方、融資減損額の減少に拠り、両事業部門におけるクレジットクオリティ(資産の質)はきわめて良好なものとなっています。

税引き前利益については、ホールセールバンキング部門、コンシューマーバンキング部門共に、二桁成長を達成する見込みです。

財務諸表(バランスシート)

財務諸表上問題のある資産区分へのエクスポージャーを極力限定し、引き続き手堅く分散化されたものとなっています。

流動性については高いレベルを保持するとともに、両事業部門における顧客預金残高(特に当座・普通預金)にも顕著な伸びが見られました。

預貸率(A/D率)は、引き続き堅固な水準を維持しています。

また、昨今実施した増資に続いて、さらに資本力の強化を図り、流動的な規制環境下で十二分に対処可能な態勢を整えています。また、リスク加重資産(RWA)については、上半期以降、一桁台の増加率を示しています。

当行グループは、底堅いファンディングの構造を有しており、今後数年間で満期予定の貸出案件へのリファイナンスは極めて限定されたものとなっています。また、インターバンク取引においても資金放出ポジションを保持しています。

業況

コンシューマーバンキング部門

コンシューマーバンキング部門では、成功裏に顧客本位のビジネスモデルへの転換が成功裏に進められており、第3四半期の中間経営報告(IMS)に記載のとおり、同部門における収益も回復基調にあることから、その収益成長率は、概ね上半期レベルで推移すると予想しています。

プロダクト(事業)面では、住宅ローン事業の収益が前年比で増加傾向にはあるものの、利鞘の下げ圧力が取引量の伸びを抑えていることから、上半期から概ね横ばい傾向にあります。一方、預金収益については、前年比で減少してはいるものの、取引量増加を反映して下半期には上昇に転じています。

クレジットカード事業、個人向け融資事業の収益は、当行が注力する投資家層や市場の良好なセンチメントを背景に増加基調が続き、ウェルスマネジメント事業の手数料収入も、投資家のセンチメントが好転したことから前年比で大幅増となっています。

中小企業向け(SME)融資事業の収益は、事業活動が引き続き活発化していることから、特に住宅ローン事業およびトレードファイナンス事業において、前年比で2桁成長となる予定です。

また、厳格なコスト管理を継続する一方で、新規店舗拡充、エクスプレス・バンキングセンター、プライオリティバンキング事業のハブ化への事業投資に拠り販売規模の拡大を図ったことから、本年度の費用総額は、前年比で2桁増となる見込みです。

同部門における投資ポートフォリオのクレジットクオリティは引き続き良好であり、下半期の融資減損額も、僅かながら上半期を下回るかたちとなっています。

また、担保貸付事業を中心に、年次ベースで2桁台の資産増加が進んでいます。

コンシューマーバンキング部門では預金残高(特に当座・普通口座)が好調な増加傾向にあります。

ホールセールバンキング部門

同部門の業績については、引き続き既存顧客層と拠り親密な関係を構築することで、顧客収益をさらに押し上げ、大変好調に推移しています。

総収益については1桁台半ばの成長が見込まれていますが、その中でも顧客収益が2桁台半ばの伸びを見せ、総収益の約8割を占めています。同部門の要(かなめ)である商業銀行サービスおよびFX取引の業績は順調に推移しており、その収益は顧客総収入の5割以上を占めています。

トレードファイナンス事業の収益は、平均取引量が順調に増加したことから、前年比で好調な伸びを示しています。また、昨年以降下げ局面にあった収益率は、上半期レベルで概ね順調に推移しています。キャッシュマネジメント事業における利益率は前年度とほとんど変わらないものの、同事業の収益については、マンドート(資金運用委託業務案件)を引き続き順調に獲得していること、また取引量の増加に抛り、前年度を僅かに上回る結果となりました。融資事業における収益は、下半期に融資利鞘の減少が見られたものの平均取引量の増加から、好調な伸びを示しています。

コーポレートファイナンス事業の収益は、下半期に減少が見られたものの、前年比では大幅に増加し、業績は大変好調なものとなりました。また、同事業部門では引き続き複数の大型案件受注獲得に成功しています。

自己取引による収益伸び率については、前年度上半期の記録的な好業績等を反映し、年次ベースで減少するものと予想しています。下半期の自己収益は、コーポレートファイナンス事業の好調な大型案件受注に抛り一部相殺されてはいるものの、ファイナンシャルマーケット・ALM両事業の低迷に抛り、上半期を下回る見込みです。

昨年上半期、当行は、先行き不透明の経済環境下において、投資を控える姿勢で臨んでまいりましたが、その後の景気回復の兆しを受けて、同年下半期から本年度にかけて積極的な投資姿勢を打ち出し、商品(プロダクト)に関するさらなるオフリング・ストラクチャの構築、また、システム標準化に向けての人材確保を目指してきたことから、コスト増加率は前年比で2桁増を予想しています。

投資ポートフォリオのクレジットクオリティは引き続き良好なものとなっています。また、景気を判断する「早期警告」指標は上半期以降改善傾向にあり、市場・業種による差異は特に認識されておりません。また、融資減損額も、前年比で大幅な減少が見込まれています。

同部門では、慎重な資産増加を図っており、リスク資産(RWA)の増加分について顧客収益の伸び率に沿ったものになると予想しています。

最後に

現在、当行グループの2010年度業績は堅調に推移しており、コンシューマーバンキング・ホールセールバンキング両部門が成長局面にあることから、今後の将来の成長を確かなものとするべく、当行グループは、引き続き投資を行い、当行グループの事業基盤(ファンダメンタルズ)は大変堅固なものであり、融資減損額も減少傾向にあります。また、成長市場であるアジア、アフリカ、中東の全域においても良好なポジションを維持しています。

本年度業績予想に関するカンファレンスコール(録画・グループ財務最高責任者リチャード・メディングス主催)は、当行オフィシャルウェブサイト(<http://investors.standardchartered.com>)で、生放送される予定です。視聴ご希望の方は、<http://investors.standardchartered.com>(説明会開始時間:9:00~GMT)へアクセスしてください。また、説明会終了後、webcastおよびpodcastにて録画をご覧になれます。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Stephen Atkinson, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 7245
Ashia Razzaq, Investor Relations, Asia +852 28203958
Jonathan Tracey, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 7613

日本語での問い合わせは以下へご連絡ください。

スタンダードチャータード銀行
コーポレート・アフェアーズ部
Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311
Ca.Japan@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとして。また、本資料は、信頼できると思われる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報に拠り内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとして。